特集「若手研究者」の編集にあたって

下條 真司[1,a)]

情報処理技術のさらなる発展のためには，学生を含む多くの若手研究者が，自由な発想や好奇心に基づき研究を進めることが重要である．そのための環境を整えること，すなわち，次世代を担う若手研究者の活動支援を行うことは，情報処理学会の重要な責務の 1 つである．本特集号は，若手研究者の活動を支援することを目的に 2014 年より実施しており，今回が 7 回目となる．

情報処理学会の扱う分野から広く投稿を募り，若手の研究者に対して査読結果をタイムリーに返し，論文掲載の機会を提供する特集号として企画した．そのため，本特集号編集委員会は，論文誌ジャーナル編集委員会を中心に，編集委員としての経験が豊富なメンバから構成した．

投稿は 5 月 31 日に締切り，コロナ禍の中で，論文誌ジャーナルに投稿された論文の総数が 36 件となった．昨年からのコロナ禍を受けて，編集委員会はすべて zoom で実施し，また，編集委員会内のコミュニケーションは slack で行われた．また，査読システムにいろいろな制約のある中，そこから査読結果をクラウドファイルシステムで共有することにより，スムーズかつ有効な議論を行うことができた．6 月 7 日に第 1 回編集委員会を行い，メタレビューアの割当てを行った．第 2 回編集委員会は 8 月 31 日，第 3 回編集委員会は 11 月 16 日に開催した．若手の研究者をターゲットとすることから，論文に不慣れな著者が多いことを理解し，玉を捨てることなく，丁寧な査読による指導的なコメントにより，論文掲載の機会を増やせるよう，査読，編集を行った．建設的なコメントにより論文を改良できるような査読を返す，厳しすぎる査読となっていないかを確認するといった編集委員の尽力により，条件付き採録となった論文が第 2 回の査読ですべて採録となった．最終的には，36 件の投稿に対して，47.2%採択率で 17 件の論文（英語論文 5 件）を採択することができ，ほぼ企画時に予定した数のとおりとなった．中でも，ジュニア会員の論文が唯一一回目査読で採録され，コロナ関連の話題をタイムリーに発表される場となったことは特筆に値する．

なお，若手研究者が基本的な論文執筆の作法を学ぶ教材として，論文誌編集委員会が学会誌に 2019 年 9 月号から 2020 年 1 月号にわたって連載した「論文必勝法」がある．ぜひ，ご一読いただきたい．

本特集は，多くの皆様のご協力に支えられて刊行に漕ぎ着けることができた．ご投稿いただいた会員の皆様，スケジュールがタイトな中，締切を守り，丁寧な査読にご尽力いただいた査読者の皆様，論文審査にご尽力いただいた本特集号編集委員の皆様，編集委員会の活動をご支援いただいた学会事務局の皆様に，心より感謝する次第である．

「若手研究者」特集号編集委員会

- 編集委員長
  下條真司（大阪大学）
- 編集副委員長
  岸野泰恵（日本電信電話）
- 幹事
  市野将嗣（電気通信大学）
  中嶋秀治（日本電信電話）
  耒代誠仁（桜美林大学）
  片山　薫（東京都立大学）
- 編集委員
  和佐州洋（豊橋技術科学大学）
  山田太造（東京大学）
  阿倍博信（東京電機大学）
  北原鉄朗（日本大学）
  伊原彰紀（和歌山大学）
  手塚　伸（日立製作所）
  大野正樹（IBM）
  里田浩三（NEC）
  高木正則（岩手県立大学）
  橋本　直（明治大学）
  原田智広（東京都立大学）
  高橋康輔（ウミトロン）
  松崎公紀（高知工科大学）
  中村和晃（大阪大学）
  柏崎礼生（国立情報学研究所）
  落合純一（未来シェア）
  塩谷亮太（東京大学）

[1] 大阪大学
Osaka University, Ibaraki, Osaka 567–0047, Japan
[a)] shinji.shimojo.cmc@osaka-u.ac.jp

© 2022 Information Processing Society of Japan